令和６年10月24日

普及センターだより

すいりくばんけい

水陸萬頃

第19号

奥州農業改良普及センター　TEL：0197-35-6741　FAX：0197-35-6303
いわてアグリベンチャーネットhttps://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/

※水陸萬頃とは
「続日本書記」によると、胆江地域は「水と土地が豊かなところ＝水陸萬頃」と記されている。

頑張る若手を紹介します！

奥州市江刺で『トマト』を栽培！　吉田祐一郎さん

吉田さんは元システムエンジニアで、実家がある江刺にUターンし農業の道に進みました。同じ市内の篤農家の下で１年間トマト栽培の研修を受け、平成29年に就農しました。

初年度は、実家のハウス4棟（8a）からトマト栽培を始めました。就農直後は失敗の連続で、１段目のトマトが全く収穫できずに終わったこともあったそうです。そんな苦しい時期に、近所の農業農村指導士によるきめ細やかなサポートを受けられ、大変心強かったそうです。この頃に教わったことが、吉田さんのトマト栽培のよりどころとなっています。

「“トライアンドエラー”。同じ失敗をしないように次に活かすことが大事。」と心がけている吉田さん。ほ場周辺の草刈りや農業機械のメンテナンスなどは父を頼り、7～8月の農繁期には母に手伝いに入ってもらい、自らは栽培管理に集中しています。就農8年目となる現在ではハウス8棟（16a）まで経営規模を広げ、単収10トン以上とJA江刺野菜部会トマト専門部でもトップクラスの収量を上げています。

今年度からはトマト専門部の専門部長となり、名実ともに産地のけん引役として活躍されています。「昨今の夏場の高温で品質低下が課題となっている。昨年から高温に打ち勝てる品種を試験栽培し、栽培適性を見極めているところ。品薄となる9～10月に高品質のトマトを出荷できる産地にしたい。」と力強く思いを話す吉田さん。産地の課題に向き合い、挑戦を続ける姿は大変頼もしいです。

11～12月の作物ワンポイントアドバイス

水 稲〔雑草管理について〕

★例年どおりの本田除草をしても残ってしまうノビエが多くなってきたという場合は、土中の雑草種子量が増加していることが考えられます。本田散布に加えて、刈取後や春の耕起前の非選択性除草剤による除草を継続的に行い、埋土種子量を減らす雑草管理を検討しましょう。

大 豆〔コンバイン収穫のポイント〕

★裂莢やしわ粒を防ぐため、収穫適期になり次第、速やかに収穫しましょう！
収穫適期：10月中下旬～11月中旬　適時間：10時～17時

★収穫時の茎水分は50%以下、子実水分は18%以下
茎水分50%以下の目安は、分枝が手でポキポキと折れる状態です。

★汚損粒の発生原因をなくしましょう！
雑草・青立ち株の抜き取り。刈り高10 cm以上厳守（土を入れないように！）。

野 菜〔来年に向けた病害虫・土づくり対策〕

★翌年の病害虫発生源にならないよう、栽培終了後の作物残さは持ち出して処分しましょう。病害の発生がひどい場合は土壌消毒や資材の消毒も検討しましょう。

★土壌診断を行い、適正な施肥を実施しましょう。養分過剰による生理障害や生育不良が生じた場合は減肥を検討しましょう。ハウス栽培でECの高い場合はビニール除去も検討しましょう。

果 樹〔りんご晩生種の収穫と収穫後の管理〕

★晩生種は、収穫時期が遅くなるほど樹上凍結の恐れが高まります。適期に収穫しましょう。

★廃棄果実は、埋める・破砕するなど処理を行い獣害が発生しにくい環境をつくりましょう。

★凍寒害の発生が心配される園地では、収穫後できるだけ早く、地際部から高さ50cm程度までホワイトンパウダー等を塗布するか、わらを巻くなどして被害の軽減を図りましょう。

花 き〔りんどう・小ぎく秋の管理について〕

★りんどう：今年はホソハマキ、オオタバコガ、黒斑病、褐斑病等が多発しました。次年度の病害虫発生要因となるため、残茎はほ場から持ち出し、焼却処分等してください。

★小ぎく：親株ハウスで塩類集積による生育不良が見られます。土壌診断を実施し、養分が過剰な際はビニールを除去、緑肥を施用するなどの対策を行いましょう。

畜 産〔冬だからこそ牛舎の明るさ対策を！〕

★冬場は、日照時間が短く、夏場よりも早く牛舎内が暗くなります。発情発見や子牛の体調管理など、牛を観察するには、牛の後躯付近で人が新聞を読めるくらいの明るさが必要です。

★照明を増設、LEDライトに交換するほか、牛舎内への石灰塗布だけでも牛舎内が明るくなります。

★牛舎が明るい時間が長いと、牛の採食量の向上 ⇒ 乳量・増体量の向上にもつながります！

施設軟弱野菜における農薬使用の留意点

これからの寒い季節に欠かせない食材である、しゅんぎく・こまつな・水菜等の軽量・小型の葉物野菜は、残留農薬の基準値を超過する事例が発生しやすい品目でもあります。

農薬を購入する前に農林水産省の登録番号があるか確認するとともに、使用する前にも、作物名・使用方法・希釈倍数・使用量・使用時期・使用回数等を十分確認しましょう。

過去の基準値超過事例で一番多い原因は、「散布器具の洗浄不十分」ですので、農薬散布後の器具は、速やかに・しっかり洗浄し、適用が無い作物に散布することの無いよう留意しましょう。

奥州市水沢で知事による「金色の風」の稲刈り行事が開催されました！

コンバインで「金色の風」の稲刈りをする知事

9月11日に知事による「金色の風」の稲刈り行事が奥州市水沢（JA岩手ふるさと森岡誠会長のほ場）で行われました。

知事がコンバインに乗り込み、自ら植えた「金色の風」を刈り取ったのち、「金色の風」の新米で作ったおにぎりを食べながら、生産者との懇談が行われました。森岡さんは「今年の品質は例年を上回るほどよい」と手応えを語っていました。また、知事は「昨年に続く猛暑の中で、きめ細かな管理を行っている生産者の皆さんに感謝したい」と話していました。

普及センターでは引き続き、生産者皆様のご要望にお応えし、産地全体で安定した品質を目指していきます。

農福連携体験研修会を開催しました！

9月27日に農福連携体験研修会をりんご生産者の岩本果樹園で開催しました。

園主の岩本さんは7年前から農福連携の取組を開始し、現在はA型事業所の方に週1回取り組んで頂いています。作業内容は摘果、葉摘み、収穫で、当日は葉摘み作業の様子を見学させて頂き、岩本さんからは取組を開始した経緯や作業上の留意点などを、事業所の方々からも取組の留意点などをお話頂きました。実際の作業の様子を見学し、お話も聞くことができて参加者からも好評でした。

今後、取組を考えているかたは、普及センターまでお知らせください。

りんご優良園地視察会を9月25日に開催しました ！

奥州市水沢の高橋俊栄さんと同市江刺の株式会社菅野農園代表取締役で農業農村指導士の菅野千秋さんを講師として、視察会を開催しました。

高橋さんからは、作業性と生産性を両立した成木の栽培管理や「奥州ロマン」等有望品種の栽培技術について、菅野さんからは、果樹複合経営における栽培管理等の分担と社員のキャリアアップ、農福連携の取組について学びました。

参加者からは多くの質問が出され、関心の高さがうかがえる視察会となりました。

東北・北海道地域農業士研究会が開催されました

今年は８年ぶりに岩手県が会場県となり、東北・北海道地域農業士研究会が開催されました。

9月2日の講演・意見交換会には胆江地方から指導士４名が出席し、「つなぐ」をテーマに他県の指導士と意見交換を行いました。

9月3日の視察研修では、江刺の高野豪氏のりんご園地が果樹コースの会場となり、品種開発の取組やりんごのジョイント栽培について他県の指導士と意見を交わしました。

ニューファーマー募集！

胆江地方農林業振興協議会では、主要品目（ピーマン、きゅうり、トマト、りんどう、りんご、水稲、肉用牛、酪農）で新たに就農を希望する方を募集し、「胆江地方ニューファーマー」として重点的に応援します。令和6年度の締め切りは12月13日（金）です。

お近くに就農を考えている方がいましたら、ぜひ普及センターまでお知らせください！

就農相談窓口の日

時期・期間

毎月第2木曜日（①10:00～、② 13:30～ 、③ 15:00～ ）

内容

就農に向けた相談や情報収集したい方に対して、関係機関の担当者が相談に応じます。

申込み方法

相談日の3日前までに、事務局（普及センター）にお申し込み下さい。

新規就農者向けの研修会等の情報をお知らせするため、今年度に就農した方の情報も集めています。
お近くで就農した方など情報がありましたら、教えていただけると幸いです。

所長のつぶやき

県内のスーパーの棚からも一時お米が消えておりましたが、新米が出回り、再びにぎやかになってきました。

初霜や初氷のニュースも聞かれ、やっとこの季節らしい気温になってきましたが、今年も非常に厳しい暑さの中で、毎日の農作業本当にお疲れ様でした。稲刈りはほぼ終わり、品質も良く、良い出来秋が迎えられたのではないかと思っております。また、りんごはこれからが最盛期、もうひと踏ん張りをお願いします。

先日、胆江地方農業青年奨励賞の審査委員会で、３名の青年農業者とお話をさせていただきました。皆さん熱意にあふれ、これからの活躍が楽しみな方々でした。

新しい食糧・農業・農村基本法のもとでの初めての基本計画が検討されております。今後、新たな制度や生産費の価格転嫁の具体策等についても見えてくるかと思いますが、お話しさせていただいた農業青年の皆さんや農業者の皆さんが希望を持てる計画や施策になってくれることを期待しております。

また、普及センターとしても、皆さんが求めるタイムリーな技術や制度などの情報発信に努めていきます。

奥州農業改良普及センター
所長　柏原　一成